

リーダーシップとマネジメントの実践 CAPD（腹膜透析）外来患者の災害時対応に対する取り組み

江口 曜（透析室）

I. はじめに

当院は地域基幹病院であり、透析室・CAPD 外来・腎臓内科病棟と連携し地域の腎センターとしての役割を担っている。東日本大震災後に着手した CAPD 災害対応パンフレットが未だ完成しておらず、災害時の対処方法についてスタッフおよび患者への教育が行えていない状況があり、災害が発生した場合に当院のスタッフや患者が混乱する可能性がある。昨年 4 月に熊本地震が発生し、当院で熊本の CAPD 患者を受け入れる機会があり被災地において災害後に CAPD 患者が支援を受け入れられない状況があった事を知った。そこで熊本地震における CAPD を取り巻く問題を把握分析し、当院の CAPD 外来での災害時対応の体制を構築すると共に、スタッフや患者の災害時の対応における意識を向上し教育に繋げていきたいと考え、今回の取り組みを行うこととした。この取り組み行うのと平行して、リーダーシップとマネジメントの実践の研修に参加し、自分自身を振り自己の課題を見いだす事ができたため、取り組みの内容と共に研修の学びを報告する。

II. 役割・立ち位置

看護師歴 17 年目で透析室の所属は 8 年目。CAPD 外来の担当になってからは 2 年で、CAPD 外来の運営に参画している。今年度から管理補佐の役割も担っている。

III. 問題・課題

1. 東日本大震災発生後から災害対応パンフレットの作成に着手はしていたが未完成であったため、熊本地震における CAPD を取り巻く問題や現状を情報収集し、その内容を考慮して災害対応パンフレットを完成させる必要がある。
2. 透析室や腎臓内科病棟のスタッフが災害時に起こりえる問題をどの程度理解できているかを把握できておらず、どう患者教育していくかなどの認識の統一もできていない。災害対応パンフレットを元に学習会を行い、スタッフの災害時の対応の知識獲得をはかる必要がある。
3. CAPD 患者に対して導入時に災害時の対応についての簡単な説明は行っているが、導入時期には患者の気

持ちの余裕がない事が多く、それ以降具体的に説明する機会をとってないため、どの程度患者が災害時の対応を把握しているかが分からない。そのため、外来通院中の患者への災害時対応の確認と教育を行う必要がある。

IV. 目標

1. CAPD 患者が災害にあった場合に患者自身で対応できるように分かりやすく、必要な情報が集約された災害対応パンフレットを完成させることができる。
2. CAPD 災害パンフレットの内容を透析室や腎臓内科病棟のスタッフに浸透できる。また透析室や腎臓内科病棟の看護師が災害時に起こりえる問題を理解し、患者教育に活かすことができる。
3. CAPD 患者に災害対応パンフレットを紹介し、患者がその内容を理解することができる。

V. 実施・結果

平成 28 年 7 月 31 日に開催された九州 CAPD 検討会へ腎臓内科部長と透析室管理者、CAPD 外来担当スタッフと共に出席し、小倉記念病院の腎臓内科医師・透析認定看護師との意見交換の場を持った。その話し合いの結果、福岡県の CAPD の災害マニュアル作成に取りかかるという動きに伴い、今年度は当院と小倉記念病院でそれぞれの災害マニュアル等の作成を進めていくことを決定した。

九州 CAPD 検討会後当院では災害対応パンフレットの完成と CAPD 患者への勉強会を開催することを決定した。そのため 8 月には当院で取り扱っている CAPD の業者 4 社から各社の災害時のマニュアルの取り寄せを行った。また、熊本地震の際の CAPD 業者の対応の状況や熊本の CAPD を行っている病院や患者の状況などを各業者から情報を収集した。しかしその後、業者からの情報の分析や災害対応パンフレットの完成がなかなか進まなかったため、リーダーシップとマネジメント研修で助言をもらい、この取り組みを行っていることがスタッフに分かるように、取り組みのスケジュールをスタッフ控室へ掲示した。それからは他のスタッフの自主的な協力もあり、災害対応に必要な内容を

網羅できる災害対応パンフレット「災害への備えと対応」を腎臓内科医師と CAPD 外来スタッフで内容の検討を重ねながら 10 月下旬に完成させることができた。

11 月 4 日に透析室スタッフへ、11 月 10 日に腎臓内科病棟スタッフに対してカンファレンスの時間を利用して「災害への備えと対応」の内容の紹介を行った。各部署 1 回のみのカンファレンスでの内容伝達であったため、参加者が限られてしまいスタッフ全員へ内容を伝えることはできなかった。

11 月 19 日に CAPD 患者への災害時対応勉強会を開催し、熊本地震の際の腹膜透析のまとめと「災害への備えと対応」の内容の説明を行った。その勉強会では当院の CAPD 患者の半数以上の参加を得ることができた。勉強会終了後にはアンケート調査を行い、参加者全員の意見を得ることができた。また 11 月の勉強会に参加できなかった患者に対しては、定期受診の時に個別に勉強会の内容を伝えた。そのため当院の CAPD 患者全員に対して災害時の対応の指導を行うことができた。

<災害対応勉強会のアンケート内容と結果>

※詳細は添付資料参照

質問内容

- 1.熊本地震の報告の内容は理解できましたか？また興味が持てる内容でしたか？
- 2.「災害への備えと対応」の内容は理解できましたか？
- 3.勉強会を受けて、災害時にどう対応するか具体的にイメージすることができましたか？
- 4.勉強会の開催日時はいかがでしたか？
- 5.その他の意見

結果内容

1.2.3.の質問に対して理解できた、イメージすることができたと全員が回答した。

「備えがあればある程度の不安が取り除けると分かった」「手順が確認できたため、災害時も慌てずに対応できそう」「事前に情報を知ると前もって備えておく事が必要であり、連絡など分かりやすくイメージできた」「また勉強会を開催してほしい」などの意見が上がった。

VI. 評価

「災害への備えと対応」の内容をカンファレンスでスタッフへ説明した時や患者への勉強会の際に「分かりやすい」「絵があってイメージしやすい」などの意見が多く聞かれた。このことからスタッフや患者が理解しやすい内容のパンフレットを作ることができたと思われる。看護マネジメントでは看護業務の標準化（誰がどこに行っても均質のサービスが提供できるような体制作り）が必要とある。CAPD に関わるスタッフが十分に理解できるパンフレットの完成により、スタッ

フ全員が統一した患者教育を行えるツールができたと言える。

パンフレットの内容を透析室と腎臓内科病棟のスタッフへカンファレンスで紹介したが、全スタッフが参加できていないため、スタッフへの内容の浸透とまではいかなかった。しかし今後 CAPD 患者の導入期にパンフレットを渡すこととなったため、CAPD 外来スタッフや腎臓内科病棟スタッフが指導時に説明することで内容の浸透に繋がると思われる。また CAPD を取り巻く災害時の問題点を考慮した内容のパンフレットを作成し、その対処法についても詳しく記載した。透析室でのカンファレンスの際に「どのような問題が起こるか十分に把握していなかったため、知れて良かった」などの意見があり、災害時に起こりえる問題を把握できる資料にもなった。

患者へ勉強会の場を設けて指導を行ったことに関しては、患者が災害時の対応を考える機会を作ることができ、アンケート結果で上がったように災害時対応のイメージを持てるようになったのではないかと考える。熊本地震の際に当院の CAPD 外来で熊本の患者を受け入れるなど、災害拠点病院としての役割を担った。今回の勉強会開催により当院の患者が各々で災害時に対応できるようになることで、災害拠点病院としての役割を担いやすくなるという効果も期待できる。

VII. まとめ

今回災害対応パンフレット「災害への備えと対応」を 9 月に完成予定であったが、完成時期が遅れてしまった。また勉強会の開催も 10 月予定から 11 月となった。私は一人で仕事を抱え込む傾向があり、今回も当初一人で動こうとしていたため、計画が進んでいなかった。リーダーシップとは「支配とは違って、集団・組織のメンバーが目的達成に向かって積極的・自発的にその活動に参加・貢献するように指導し、さらに構成員相互の連帯性を維持・向上させる機能である」とされている。この際の私の反省としてはスタッフへの仕事の分担やどう取り組むのかをはっきりと提示することが必要であった。リーダーシップとマネジメントの実践の研修会の際に、病棟全体がその目標に向かうという意識が大切であるとの助言をもらい、スタッフ控室に今回の取り組みを掲示した。それを行ったことにより自分自身の奮起にもなり、CAPD 外来スタッフの自主的な協力を得ることに繋がった。

今回の取り組みは腎臓内科医師や腎臓内科病棟といった他部署との連携と患者の協力が必要であったため、透析室管理者に相談しながら他部署への協力依頼などを行った。それにより連携はスムーズにとることができた。腎臓内科医師や腎臓内科病棟への協力を得ることができたことで、患者が勉強会の参加の必要性を理解してくれ、勉強会の成功に繋がった。

自己の課題としては自分一人で取り組むのではなく周囲のスタッフを巻き込み、取り組みの目標を明確化しメンバーに伝え、メンバーが何に取り組むのかを提示することであると思われる。それによってスタッフのモチベーション向上に繋がり、メンバーシップが十分に発揮できる可能性があるということをリーダーシップとマネジメントの実践研修を通して知ることができた。

<添付資料>

災害対応勉強会のアンケート結果

回収率 23 名/23 名 (100%)

1.熊本地震の報告の内容は理解できましたか？また興味が持てる内容でしたか？

はい：23 名 (100%)

どちらともない：0 名 (0%)

いいえ：0 名 (0%)

理由：緊急時の対応が分かった

実際の避難の様子やメーカーの対応が分かりやすかった

詳細にレポートが書かれていた

災害は日頃関心がないが、いつ起こるか分からないため参考になった

災害が起こる度不安だった

冷静沈着な対応がメーカーと病院のタイアップで出来ていた事が分かった

2.「災害への備えと対応」の内容は理解できましたか？

はい：23 名 (100%)

どちらともない：0 名 (0%)

いいえ：0 名 (0%)

理由：資料が丁寧で分かりやすかった

備えをすればある程度の不安が取り除けると理解できた

今後の災害対応の参考になった

3.勉強会を受けて、災害時にどう対応するか具体的にイメージすることができましたか？

はい：23 名 (100%)

どちらともない：0 名 (0%)

いいえ：0 名 (0%)

理由：手順を確認でき、災害時にも慌てずに対応したい

事前に情報を知ること、前もって備えておくこと、病院・メーカーへの連絡方法など分かりやすくイメージできた

注意事項を改めて認識できた

4.勉強会の開催日時はいかがでしたか？

良い：21 名 (91%)

どちらともない：2 名 (8%)

悪い：0 名 (0%)

理由：記載なし

5.その他の意見

また定期的に開催してほしい

丁寧な説明で良かった

病院と連絡を取るためのメールアドレスを開設してほしい

災害時に対応可能な病院の情報が必要ではないか

引用・参考文献

1) 看護管理学習テキスト 看護管理概説 日本看護協会出版 P131 2007